



今月の話題

- 通年研修の集団研修完了と個人研修開始について
- 東北研修旅行レポート
- Harsh K. Gupta 博士がIASPEIメダルを受賞
- ドミニカ共和国国別研修について
- 人事異動の紹介
- 新任のご挨拶

通年研修の集団研修完了と個人研修開始について

国際地震工学センター センター長 芝崎 文一郎

2022-2023年度の国際地震工学通年研修における集団研修を、5月12日をもって完了いたしました。集団研修では、研修生は、地震学、地震工学、津波防災の3コースに分かれ、約8カ月をかけて、各分野に係る講義を受講し基礎的及び応用的知識を習得します。

2022-2023年コースは、研修開始時から全員日本に来日することができ、基本的に対面での講義を受けてきました。4月24日の週には、3泊4日で東北方面への研修旅行も実施することができました。地震学と津波防災コースの研修員は5月8日の週に気象庁での2日もしくは3日の講義を受けました。地震工学コースの研修員は、5月12日に筑波大学病院の免震レトロフィットによる耐震改修現場の見学を行いました。

さて、個人研修が5月15日から始まりしました。3名の研修生が遠地に滞在し、個人研修の指導を受けます。研修生全員が母国の地震防災に貢献できる研究成果が得られ、修士号を取得することを期待しております。研修生の努力に敬意を表するとともに、講師の皆さま方に厚く御礼申し上げます。

地震工学通年研修コース

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/training/train/annual/>

東北研修旅行レポート

ハニー・アブエルナガ・アメン・アダム(エジプト、Sコース)

2011年3月11日14時46分(日本時間)、東北地方を襲ったマグニチュード9.0の大地震は、日本の観測史上最大の地震となりました。私は4日間(2023年4月24日~27日)、S&Eコースのクラスメートたちと研修旅行で福島県と宮城県を訪れる機会を得られ、大変嬉しく思っています。

研修データベース

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

E ラーニング

IISENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

地震データベース

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

この旅行では、地震災害およびそれが引き起こした津波災害、そして災害の影響を物語る多くの場所を訪れました。私たちは、日本政府がこの災害にいかに対処したか、何千人もの住民が被災地からいかに避難したか、そしてこれらの地域において大地震後に復興および将来的な減災のために歩んだ過程から何が生じたのか、学びました。例えば、より被害を受けやすい海岸近くに、歩道や避難場所が大地震後に築かれたことなどです。これらの被災地のうち旅行で訪れたのは、1873年に設立され、海岸から700メートルの場所に位置している仙台市立荒浜小学校です。子ども達・教師・住民が、建物の2階まで達した津波から身を守るために学校の屋上に避難し、ヘリコプターで救助されたことを知りました。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の記憶を残すための博物館である「東日本大震災・原子力災害伝承館」も訪問しました。それは、震災で最も被害を受けた地域の一つである福島県双葉町にあります。最後に、今回の旅をアレンジもしくは同行してくれたIISEEのスタッフ、S&Eコースのクラスメート、JICAコーディネーターに感謝します。



集合写真(SコースとEコース)

ヌルル・ナスハ・ビンティ・モハメド・ジン(マレーシア、Eコース)

東北地方への研修旅行は、感動的で目を見張るような体験であり、私たち全員に深い印象を残しました。東日本大震災の余波を目の当たりにし、被災地を訪問したことで、私たちは災害の深刻さと人々が被った莫大な損失を実感しました。この体験から得た教訓は、かけがえのないものです。

この旅は、自然災害に見舞われた人々への共感と支援の重要性を教えてくれました。みやぎ東日本大震災津波伝承館で、心を揺さぶる展示物を見たり、被災者の話を聞いたりして、彼らの痛みや苦しみに深く共感しました。そして破壊された生活を再建するための思いやりの心と支援の必要性を強く感じました。

また、今回の研修旅行では、備えと積極的な対策の重要性が強調されていました。NHK仙台放送局の耐震設計や仙台市立荒浜小学校の頑丈な構造は、レジリエントなインフラの重要性を示していました。また、災害の影響を軽減するため

には、早期警報システム、効果的な避難方法、コミュニティの結束が重要な役割を果たしていることを実感しました。

東北地方への研修旅行は、深く、変容に満ちた体験でした。共感、支援、備え、そして過去の悲劇から学ぶことの重要性を教えてくださいました。そして、積極的な対策とレジリエントなコミュニティの提唱者になることを決意させられました。そして何よりも、逆境に立ち向かう人間の精神の強さと、困難を克服するための団結の力を私たちに気付かせてくれました。



荒浜小学校にて

マロダリ・ジョージ・サカライア(フィジー、Tコース)

この場を借りて、今回の研修旅行で私たちを引率し、素晴らしい経験をさせてくださった JICA の谷口さん、IISEE/BRI の藤井先生、都司先生にお礼を伝えたいです。私自身は、この研修旅行で学び、美しい景色を楽しむと同時に、新しい食べ物にも挑戦することができ、とても良い経験になりました。

研修旅行中の先生方の説明は素晴らしいものでした。YouTube の動画や講義の中でしか見たことのない場所がほとんどでしたが、地震や津波による被害を実際に自分の目で見ることができました。また、ビデオ鑑賞や生存者の方々のお話は心に響きました。この悲劇で大切な人を失ったご家族にお悔やみを申し上げます。

講義で習った、ピートサンプラーを使って津波で浸水した場所の土壌を採取する調査も初めて体験しました。レーザー距離計で津波の遡上高も測定しました。これらの活動は、帰国後の日常業務に活かせるので勉強になりました。

この旅は、これまでの認識が変わった有益なもので、一日一日を楽しむことができました。地震と津波という2つの自然災害の痕跡を、研修生が目当たりでできる素晴らしい取り組みであることを強く述べたいと思います。



集合写真(Tコース)



Harsh K. Gupta 博士が IASPEI メダルを受賞

国際地震工学センター センター長 芝崎 文一郎

元研修生の Harsh K. Gupta 博士から IASPEI メダルを受賞するとのご報告がありました。2023 年 7 月にベルリンで開催される IUGG GA の中で、IASPEI メダルを授与される予定です。

詳しくは IASPEI Newsletter をご覧ください。

<http://iaspei.org/newsletters/2020-2029> (2023 April)

“IASPEI(国際地震学・地球内部物理学連合)メダルは、IASPEI の目標と活動を持続させた地震学の功績と、地震学と地球内部物理学の分野における科学的功績に対して授与されます。”

Harsh K. Gupta 博士は、1966-1967 年の通年研修、1971 年の地震学上級コースに参加された元研修生です。

Gupta 博士は、1992 年から約 10 年間、ハイデラバードの国立地球物理学研究所(NGRI)の所長を務めるなど、その優れたキャリアを通じて複数の重要な役職を歴任しました。

また、インド国家災害管理局委員(身分:インド政府国務大臣、2011-2014)、インド政府海洋開発省長官(2001-2005)、NGRI 所長(1992-2001)、インド政府科学技術省顧問(1990-1992)を歴任しました。

ユネスコ、英連邦科学評議会、国際原子力機関、ICSU などのアドバイザー・コンサルタントとして、グプタ博士の専門知識は世界的に広がっています。

1986 年には、1988 年 8 月 6 日に発生したインド北東部のマグニチュード M~8 の中期地震を予測し、成功を収めました。さらに、1992 年から 1999 年までは世界地震災害評価プログラム(G-SHAP)の運営委員会の議長を務めました。

2004 年 12 月のスマトラ沖地震と大津波の後、30 カ月という極めて短い期間でインドの津波警報システムを確立したことも、彼の功績のひとつです。Gupta 博士のリーダーシップの結果、インドの津波警報システムは、現在、世界的に最も優れたシステムの 1 つとして認識されています。

IASPEI メダルの受賞に、IISEE スタッフ一同、心からお祝いを申し上げます。



楽しむのは今です

ドミニカ共和国国別研修について

国際地震工学センター 管理室長
山田 高広

建築研究所企画部国際担当を窓口として 5 月 10 日(水)に、ドミニカ共和国からの国別研修がありました。ドミニカ共和国からは国立地質インフラ構造物耐久調査局 5 名、経済企画開発省 1 名、公共事業コミュニケーション



福山理事より挨拶

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するように誘います。

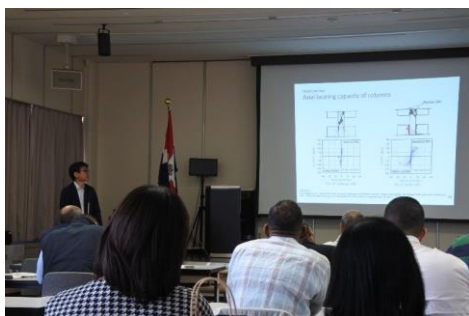
iiseenews@kenken.go.jp
<https://iisee.kenken.go.jp/jp/>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/newsletter/>

省2名、住宅建築省2名、保健省1名、国立地震学センター1名、民間防衛省1名、国家地質サービス1名、地震学地震工学協会1名及び通訳2名の総勢17名が受講しました。

国別研修は、建築研究所福山理事挨拶の後、建物の脆弱性評価に関する講義、研修案内、質疑応答及びドミニカ共和国からの苦労話がありました。建物の脆弱性評価に関する講義は小豆畑構造研究グループ長が、研修案内は芝崎国際地震工学センター長が対応しました。



小豆畑構造研究グループ長より
建物の脆弱性評価講義



芝崎センター長より国際地震工学研修紹介

人事異動の紹介

国際地震工学センター管理室長 山田高広

3月31日付けで、IISEEの諏訪田晴彦主任研究員が退任され国立大学法人信州大学工学部建築学科教授となられ、鹿嶋俊英研究員が退任され、山田陽平研修庶務担当主事が土木研究所へ異動となりました。

また、4月3日付けで小野塚遼研修庶務担当主事が採用され、IISEEに配属されました。

新任のご挨拶

国際地震工学センター 研修庶務担当主事 小野塚 遼

4月より国際地震工学センターに配属となりました。小野塚遼です。茨城県つくば市から通勤しています。趣味は旅行、キャンプ、スポーツ及びサイクリングです。スポーツは特に野球が好きです。皆さんと色々な話が出来れば良いなと思っております。

仕事に関しましては、分からないことが多く不安な気持ちでいっぱいですが、皆さんの支えがあり仕事をこなせています。いち早く出来る仕事を増やし、皆さんのお力になれるよう頑張ります。

